

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

東邦化学工業株式会社

東京証券取引所スタンダード市場 証券コード：4409

2024年11月6日

主要財務諸表（連結）

単位：百万円

	2025年3月期 (第2四半期)	2024年3月期 (第2四半期)	前年同期比
売上高	26,640	24,941	+ 1,699
営業利益	892	256	+ 635
経常利益	883	214	+ 669
親会社株主に帰属する 中間純利益	857	131	+ 725
1株当たり中間純利益	円 銭 40.79	円 銭 6.27	円 銭 + 34.52

売上高：増収

- ・ 半導体市況の回復に伴う電子情報産業用微細加工用樹脂の大幅増収
- ・ 石油添加剤等の販売回復

営業利益：増益

- ・ 売上高の増加による収益効果
- ・ 売上構成の変化等に伴う利益率の改善
- ・ 連結子会社である東邦化学（上海）有限公司等の業績改善

連結四半期業績推移

単位：百万円

	2024年3月期				2025年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	12,627	12,313	12,802	12,853	13,231	13,409
		上期		下期		上期
		24,941		25,655		26,640
				通期		
				50,596		

	2024年3月期				2025年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業利益	▲ 34	291	237	277	410	481
		上期		下期		上期
		256		514		892
				通期		
				771		

セグメント別の状況

界面活性剤

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期
売上高	14,183	13,207
セグメント利益	165	287

- 香粧原料
- プラスチック用添加剤
- 土木建築用薬剤
- 紙パルプ用薬剤
- 農薬助剤
- 繊維助剤 等

前期比較

売上高：減収
香粧原料の大口ユーザー向け販売減少
及び土木建築用薬剤の販売減少

セグメント利益：増益
売上構成の変化等に伴う利益率の改善により
増益

樹脂

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期
売上高	1,702	2,310
セグメント損益	▲65	29

- 合成樹脂
- 石油樹脂
- 樹脂エマルション
- アクリレート 等

前期比較

売上高：増収
石油樹脂の原料不足による減産幅の縮小
及び合成樹脂、アクリレートの需要回復

セグメント利益：赤字解消
増収による収益効果により赤字解消

化成品

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期
売上高	2,755	3,167
セグメント利益	14	18

- ロジン系乳化重合剤
- 石油添加剤
- 金属加工油剤 等

前期比較

売上高：増収
石油添加剤は海外需要回復、
金属加工油剤は水溶性切削油剤等の需要回復

セグメント利益：増益
増収による収益効果により増益

スペシャリティーケミカル

単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期
売上高	6,229	7,914
セグメント利益	193	424

- 溶剤
- 電子情報産業用の
微細加工用樹脂 等

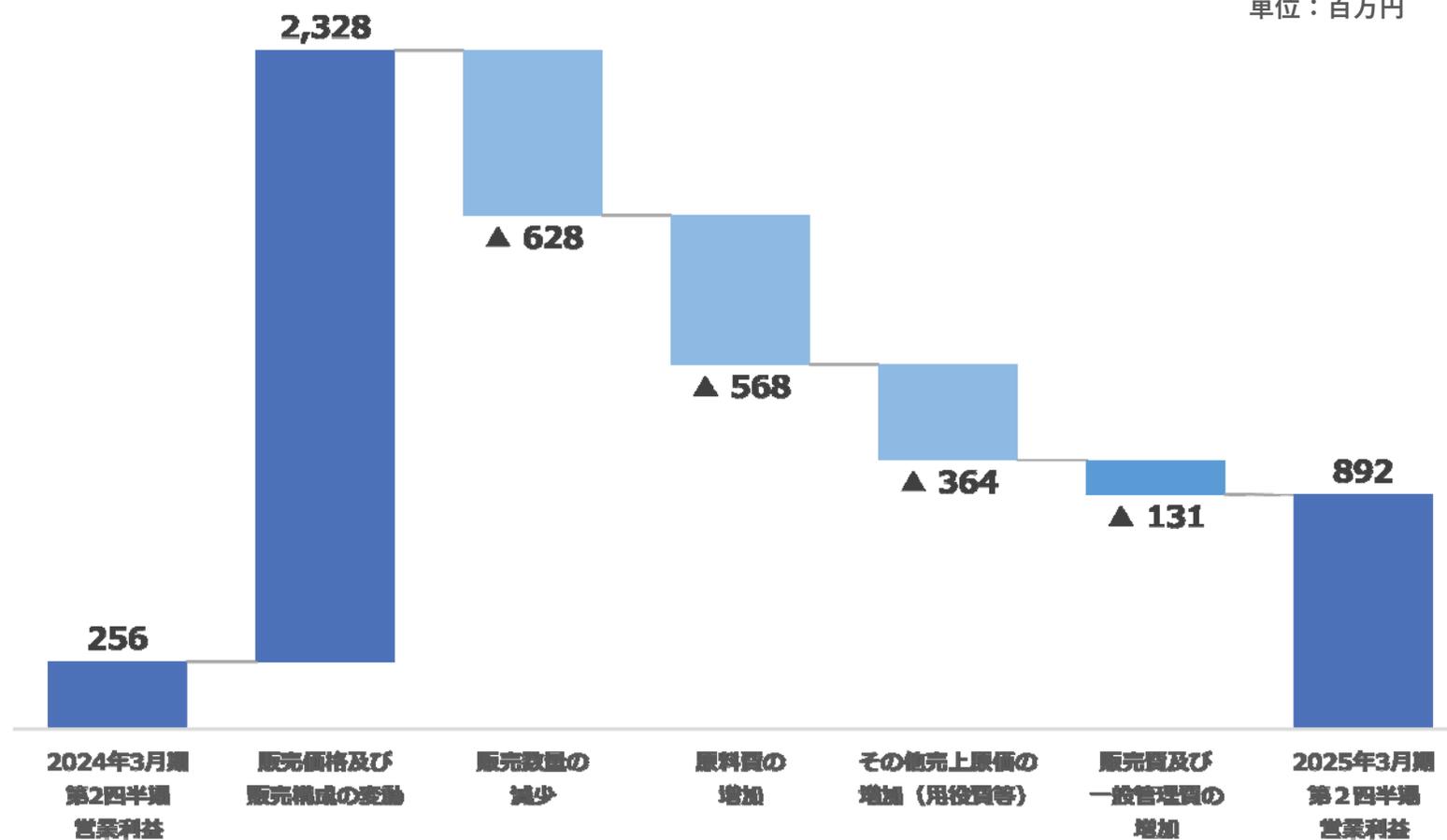
前期比較

売上高：増収
溶剤は製品単価の上昇、電子情報産業用
微細加工用樹脂は半導体市況回復により
販売大幅増加

セグメント利益：増益
増収による収益効果により増益

連結営業利益の増減分析

単位：百万円

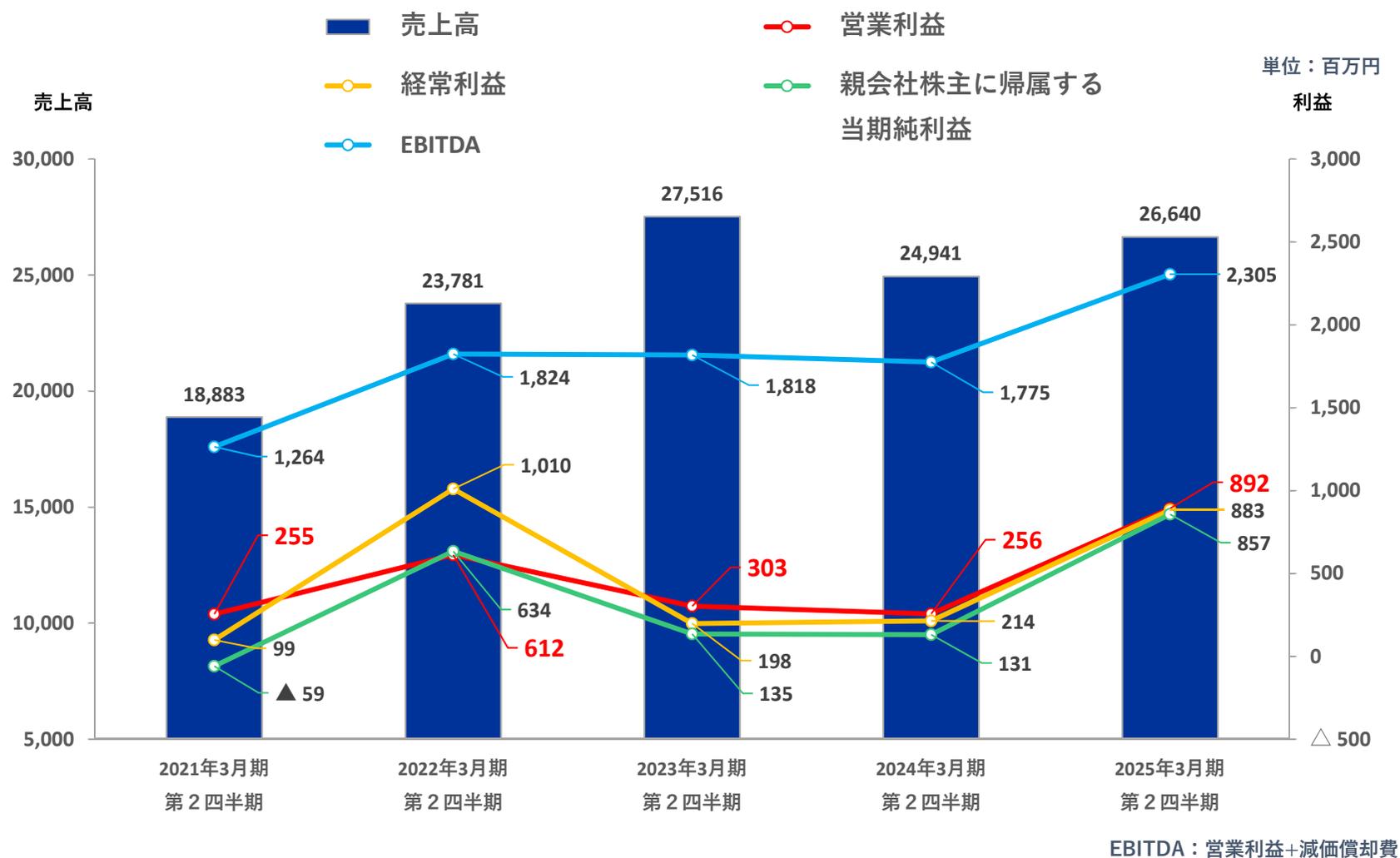


連結キャッシュ・フローの状況

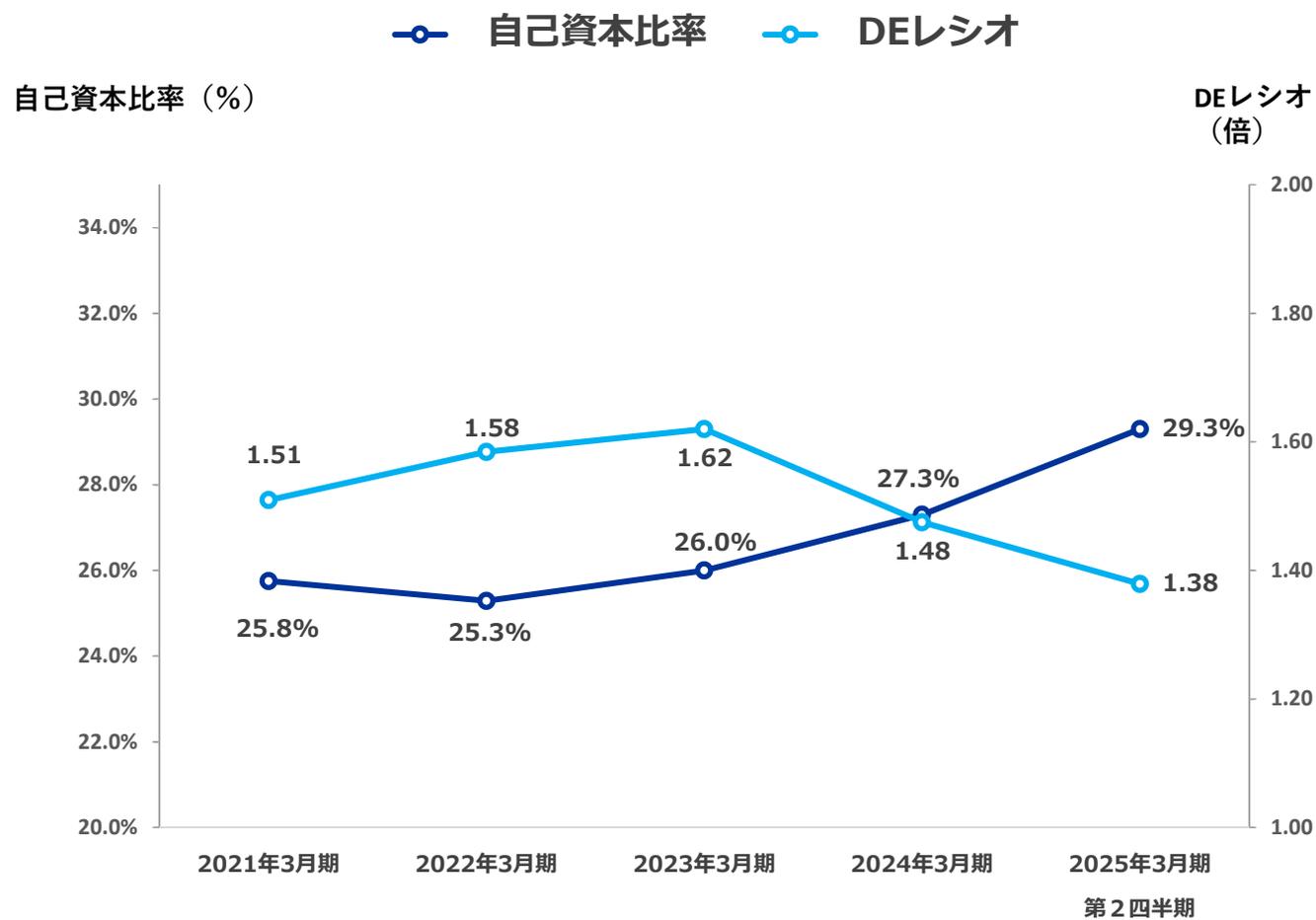
単位：百万円

	2024年3月期 第2四半期	2025年3月期 第2四半期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	1,409	922	▲ 487
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 655	▲ 1,322	▲ 667
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 690	▲ 487	+ 202
現金及び現金同等物 期末残高	6,041	5,989	▲ 52

連結業績推移（第2四半期）



経営指標推移



DEレシオの有利子負債は社債・借入金の合計額を対象としております。

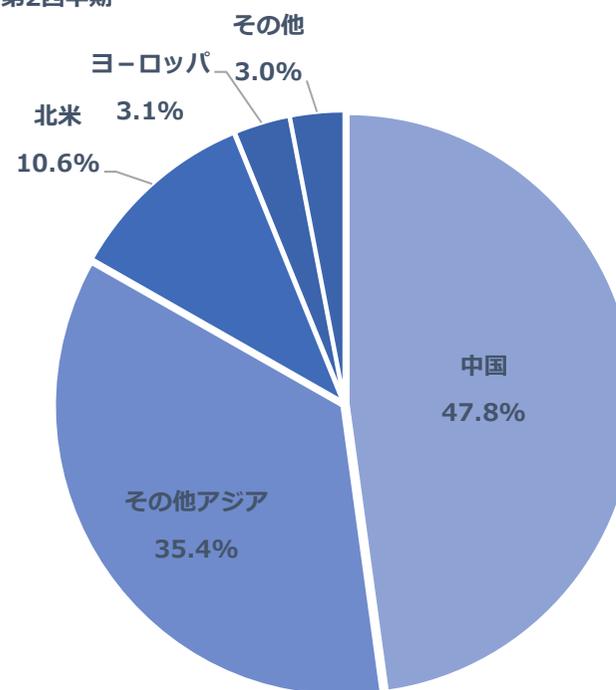
地域別連結売上

国内・海外別売上推移



海外売上における地域別売上比率

2025年3月期
第2四半期



海外売上比率

2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 第2四半期
16.0%	18.0%	15.7%	15.3%	16.6%

連結業績予想

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想
売上高	50,596	52,500
営業利益	771	1,550
経常利益	743	1,440
親会社株主に帰属する 当期純利益	546	1,200
1株当たり当期純利益	円 銭 25.99	円 銭 57.07
年間配当金	円 17	円 18

売上高：増収

- ・香粧原料の大口ユーザー向け販売が大幅減少。
- ・一方、電子情報産業用微細加工用樹脂が半導体市況回復により大幅増収。
- ・石油樹脂の原料不足による減産幅の縮小。
- ・上記の大口ユーザー向け以外の香粧原料や石油添加剤等、幅広い分野で需要は回復基調。

営業利益：増益

- ・増収による収益効果。
- ・売上構成が変化し、利益率の高い製品の構成比率が高まったことによる利益率向上。
- ・東邦化学（上海）有限公司をはじめとする中国子会社の損益改善。

TOHO Step Up Plan 2024の進捗状況

	TOHO Step Up Plan 2024 最終年度（2025年3月期） 数値目標	2024年3月期実績	2025年3月期業績予想
売上高 (百万円)	60,000	50,596	52,500
営業利益 (百万円)	3,000	771	1,550
売上高営業利益率 (%)	5.0	1.5	3.0
純資産額 (百万円)	20,500	19,160	—
自己資本比率 (%)	28.0	27.3	—
ROE (%)	10.0以上	3.0	—
1株当たり配当額 (円)	20	17	18

TOHO Step Up Plan 2024 の取り組み状況

<最重要課題>

1. 事業ポートフォリオ基本方針に基づく収益性重視の経営の推進
2. 電子情報材料分野の拡大で中核事業化へ
3. 東邦化学（上海）有限公司を成長軌道に乗せる

<その他の重要課題>

1. 脱炭素化に向けたサステナビリティ活動の取り組み強化
2. 最適生産体制の一層の強化
3. 研究開発投資の選択と集中の徹底で高機能・高付加価値製品の開発を加速
4. スリムな人員体制で人材育成に注力し、社員の待遇改善を図る

今期（2025年3月期）の業績は、当社の成長の鍵である電子情報材料事業（最重要課題2）と中国事業（最重要課題3）の業績改善を主因として、大幅に業績が悪化した前期との比較では、順調に回復に向かっています。しかしながら、TOHO Step Up Plan 2024に掲げた利益目標と今期の利益水準とを比較すると大きな乖離があり、収益改善への取り組みは道半ばの状況です。上向き始めた業績の改善ペースを更に加速すべく、上記の最重要課題及び重要課題に引き続き全社一丸となって取り組んでおります。

<最重要課題の取り組み状況>

事業ポートフォリオ基本方針に基づく収益性重視の経営の推進

不採算製品の統廃合や売価見直しは、計画立案時に候補とした製品について概ね対応完了。
懐集東邦化学の金属加工油剤事業撤退等、事業環境の変化への対応も進めている。

電子情報材料分野の拡大で中核事業化へ

今期は、半導体市況の回復に伴い販売は増加基調に転じ、加えて製造合理化や採算改善努力の効果もあり、収益性は改善に向かっている。今上期、先端樹脂製造設備増設や原材料安定確保のための冷蔵倉庫新設が完了。今下期は、2023年3月期に稼働した新プラントの二期増設工事に着手予定。また、製造設備洗浄時に使用する溶剤のリサイクル化によるコスト削減を見込む。

東邦化学（上海）有限公司を成長軌道に乗せる

今期の業績は堅調に推移しており、通期で約3億円の営業利益確保を見込む。日本よりも安価で原料を調達でき、かつ生産性が高い同社の優位性を活かすため、国内工場からの生産移管の取り組みを継続中。中国国内での販売においては香粧原料の複数製品が新規実績化。生産能力増強に向けた追加設備投資について、今下期に検討・判断を行う予定。

<その他重要課題の取り組み状況>

脱炭素化へ向けたサステナビリティ活動の取り組み強化

今期中に脱炭素化の具体的目標とスケジュールを決め、公表すべく準備中。生産面では、生産合理化によるエネルギー消費削減や排水・廃溶剤削減、廃熱の回収等に注力中。土木建築用薬剤で環境負荷低減製品の販売実績化。合成樹脂も環境負荷低減製品の販売により温室効果ガス削減に貢献。

R S P O（持続可能なパーム油のための円卓会議）認証を今期中に取得すべく対応中。

最適生産体制の一層の強化

千葉工場における電子情報材料事業のウエイトを高めるための生産移管や、東邦化学（上海）有限公司の活用拡大のための生産移管など、グループ全体の競争力を高める取組みを継続中。競合する中国等からの輸入品との競争激化に対応するため、競争力の乏しい汎用製品の生産を縮小し、収益性の高い製品にシフトするなど、生產品の見直しについても取組み継続中。

研究開発投資の選択と集中の徹底で高機能・高付加価値製品の開発を加速

当社の強みである多岐にわたる製品群での幅広い技術を組み合わせることによる課題解決への取組みを継続中。香粧原料新規ポリマーや電子情報材料、土木建築用環境負荷低減薬剤等、研究エネルギーを集中する分野・テーマを定めて開発に注力中であり、実現が間近に期待されるテーマもある。

スリムな人員体制で人材育成に注力し、社員の待遇改善を図る

前期実施した従業員エンゲージメント調査では能力開発支援強化に関する改善要望が多く、今下期、社員研修の見直し・強化を実施する。間接部門では、システムの導入や事務作業のアウトソーシングによる人員数抑制への取組みを継続中。生産面でも、自動運転化の範囲拡大や生産合理化による生産時間短縮など、省人化への取組みが進捗中。